

宮代町歴史散歩

編集・発行／宮代町教育委員会・宮代町文化財保護委員会・1982.3



古利根川

宮代町の沿革

宮代町に始めて人々が移り住んだのは、前原遺跡の調査から約14,000年前と言われている。

その後、縄文時代などを経て平安時代末には、埼玉郡太田庄に属している。

また、室町時代姫宮神社に掛けてあったと言われる鰐口には、

応永21年(1414)「武州太田庄南方百間姫宮」とある。

江戸時代には、主に旗本領に属しそのころ新田開発が進み笠原沼新田等多くの田地が開かれた。

明治4年埼玉県となり、同23年町村合併により百間村・須賀村となった。

その後、昭和30年7月両村が合併し宮代町となり現在に至っている。

1 西方院

寛元元年(1017)創立といわれ、岩舟山と号する。当寺には、文久3年(1863)の「御除地境内」の文書がある。それによると当時は東西118m、南北72.8m、8534㎡(8反6畝6歩)に及ぶ広大な境内敷地であった。一方、本堂入口に掛かる「岩舟山」の題額は、古利根川の舟運が盛んであった頃舟をつないだ杭を加工して造られたものである。なお、当寺には鎌倉時代の作といわれる十一面観音菩薩立像が安置されている。

2 身代神社

旧須賀村の鎮守であるこの社は、出雲須賀宮の祭神である事代主命を移し祀り、事代が身代に転化し社名となったものと言われている。身代の代をとり現町名の一部とした。社殿の奥には、江戸時代後期の作と思われる約60基の庚申塔がある。また、社殿の西側に小さな池があるが、もとは利根川の流路だった名残りといわれる。なお、付近には縄文時代～平安時代の遺跡がある。

3 真藏院身代薬師伝説

鎌倉時代北条氏に仕えていた会津の人伊藤修理大夫光重は仲間の中傷から主君に討たれてしまった。光重の首を鎌倉に運ぶ途中須賀の里真藏院の境内まで来ると首が急に重くなり動かなくなってしまった。



驚いて中を見ると薬師如来の首が出て来たのである。さっそく会津の薬師如来を調べてみると首がなくなっていた。光重が日頃信仰している薬師如来が身代りとなったのであった。人々はそこでここに御堂を建て祀ったということである。その御堂も、明治34年火災に会い焼失してしまった。

4 鎌倉街道

今でも土地の人達から古街道とよばれている小道がある。この道は中世の鎌倉街道の1つで(中道)東条原から須賀真藏院前をぬけ万願寺橋付近をへて旧下高野村(現杉戸町)にいたり、さらに幸手、古河方面へと通じていた。奥州から鎌倉へ向う主要交通路であり奥州に下る静御前も通ったと言う。また、室町時代に市場がこの街道沿いで開かれていたのをみても、当時奥州路の主要な交通路として開けていたことがうかがえる。

5 矢部造酒之丞碑

江戸時代の終りから明治初期にかけて各地には多数の寺小屋があった。矢部造酒之丞によって西条原に創立された寧候義塾もその1つである。造酒之丞は、い湖と号し嘉永5年(1852)に生まれ、大正12年72才で没している。その間、明治初年塾を開き幕府儒者和氣天造を招くなどして教授した。寺子数は数十人という。明治6年学制施行とともに閉塾となった。碑は、高さ2m程のもので生家前にある。

6 日光御成街道

江戸本郷追分から、王子、岩淵、川口、鳩ヶ谷、大門、岩槻をへて幸手で日光街道に合する6宿12里の道中を日光御成街道と称されていた。ことに、将軍が日光社参に通う道であったので御成街道と言われていた。町内にはその面影は見えないが、白岡の一里塚や杉戸、岩槻の松や杉の並木などわずかに往時をしのばせてくれる。なお、日光社参の記録には元和3年(1617)秀忠、寛永19年(1642)家光等歴代将軍の名がある。

和戸キリスト教会

明治の始め、和戸村の人小島・小管両氏はあいついで横浜へ出かけました。明治7年小島は病氣になり、医師へボン博士(ヘボン式ローマ字で著名)の手当を受けたのを機会に翌年宣教師により洗礼をうけました。その後、帰郷して明治11年当地に教会を創立し、同15年教会堂を建てて戦前まで使われました。

7 衆原鷲宮神社の獅子舞

当社では、毎年7月16日獅子舞が奏納される。江戸時代に新田開発が行なわれたが、たび重なる洪水に見舞われ、作物もとれず疫病の流行に苦しんだ。これは、新田の開発によって当地の神々の怒りを招いたためと思い、村人は獅子舞を習い、延享2年(1745)頃始まったと伝えられている。境内で行なわれる舞は、門がかり(通い笛)、梵天、女獅子隠し、平庭(平和な家庭を願う舞)など七通りから成り立っている。男獅子女獅子、中獅子やヒョットコ3人、笛方8人、歌方(大鼓)2人、天狗1人でそれぞれ舞いおどる優雅なものである。

8 道しるべ

学園台団地南側の道端にある。明治8年6月に建てられたもので、正面に変体がなで東、東京・春日部・越谷・草加等とあり、左側面に西北、幸手・久喜・鷲宮・菖蒲と、右側面に西南、篠津・白岡・伊奈・鴻巣等と、記されてある。裏面に、年号とその下に「石橋十箇所共再造」とあり、このほか中村平左衛門の詠んだ句が書かれてある。明治初年江戸から東京に変わってまもない道標としてめずらしいものである。

9 東武動物公園駅(旧杉戸駅)

当町に鉄道が敷かれ駅が設置されたのは、明治32年8月の事で、杉戸駅、和戸駅がそれぞれ開設された。当時は北千住から久喜駅に至る40.1kmの単線で当時私鉄大手の日本鉄道久喜駅に結んだ。しかし、旧百間村にありながら杉戸駅と呼称されたが、旧日光街道杉戸宿によるものと思われる。開通当時駅前道路に記念のサクラの木を植え、春には花のトンネルが出来て壮観であったとのことである。

10 手嶋堵庵と女躰宮

蓮谷の鈴木家に、江戸時代終りころ京都の心学者2代目手嶋嘉左衛門(堵庵)の位はがあります。なぜそれがあるのかわかりませんが、それを裏づけるかの様に駅構内鎮守「女躰宮」の伝説があります。昔、京都で学問を教えていた祖先の1人は三条家の姫君と恋仲になりましたが、結ばぬものと当地へ戻って来てしまいました。姫は後を慕って来ましたが、途中何者かに襲われ近くの池に身を投じてしまいました。人々は哀れに思い女躰宮を祀りました。

11 長屋門と間引禁令事

加藤家は、徳川幕府以来代々旧蓮谷村の名主を勤めた家柄で、今の建物は家人の話からおよそ天保年間(1830~1843年)以降のもので推測される。

長屋門は大きな茅葺、瓦を並べた棟飾りの母屋を背景に老松を配し建てられ、母屋と同年代のものと思われる。白壁造りで間口17.3m(9間半)、奥行3.6m(2間)軒高2.7m(1間半)の茅葺で竹縁で押えた棟飾りが施されている。中は物置と馬小屋便所がある大戸、並びに格子戸があり一般の人達は右側の通用門を通った。

一方、当家には江戸末期に領主から発せられた間引禁令書がある。それには、子供を中絶したり生み落した直後に殺したり、捨てたりすることなく大事に育てることとある。また、この罪を犯した者には過料(罰金)として本人始めそれぞれの役柄に応じて連帯責任が負



わされており、それを払えぬ貧しい者には、頭の左右の髪の毛の片方等を刺り落したというものである。

12 山崎遺跡(埼玉県選定重要遺跡)

先土器時代の終り頃から縄文時代後期(約13000~3500年前)、また古墳時代(6世紀頃)の集落跡がある。その一部は、昭和50年8月に学術調査が行われ縄文時代早期末(約7000年前)の炉跡(カマド跡)5基、同時期の石器製作跡などが発掘された。また、古墳時代約1400年前頃の住居跡1軒が発掘され、住居跡からは壺などの大形の土器がいくつか出土している。なお、この他町内には20数ヶ所の遺跡が確認されている。

13 重殿社

村落から外れた北側の林の中に社がある。山崎の鎮守であり、最近新しく建て替えられた。重殿社とは幾つかの神を合せ祀ったものと言われているが、その縁起は明らかではない。境内には、高さ2mほどの二十三夜塔がある。文政12年(1829)10月に作られたもので、武州埼玉郡百間村との銘がある。また、明和2年(1765)3月の銘がある稲荷大明神の祠もある。付近は、雑木林で武蔵野の面影を僅かに残している。

14 庚申塔



野道のかたわらに彫刻された石塔をみかける事がある。その多くは庚申塔と呼ばれるもので、十干十二支の組み合わせによる庚申の日に祭る神を刻んだ塔である。

15 若宮八幡

今からおよそ380年の昔(江戸時代の始め)山法師の高橋七郎兵衛は、鶴岡八幡のお姿を背負って道々八幡信仰をすすめながらこの地にやって来た。やがて彼は、この地に住みつき農業のかたわらますます信仰を深めたため近隣から多くの信者が集まり、その人達も一緒に住むようになった。そこで鶴岡八幡を当地の氏神として祀ったのが当社の起りと伝えられている。八幡信仰は、ことに鎌倉・室町時代盛んであった。

16 西光院

当寺は、新義真言宗に属し京都の醍醐三寶院の末寺で百間山光福寺と称し、行基(668~749年)の草創である



と伝えられている。江戸時代將軍より朱印地50石を拝領していた。また、国の重要文化財である安元2年(1176)に作られた阿彌陀三尊像があり、現在上野の博物館に保管・展示されている。このほか境内には、貞治6年(1367)や寛保2年(1742)に建立された宝篋印塔などがある。また、当寺は「御影供寺」として知られ、毎年4月21日参詣の人々でにぎわう。

17 板石塔婆

鎌倉から室町時代にかけて流行した供養塔の1種で、ことに県内には多く、秩父産の緑泥片岩を平板に加工して使われたもので「青石塔婆」ともよばれています。石の面には種子、仏名、法号などが刻まれており、町内には、60基ほどあります。

18 姫宮神社

当社はかつて旧百間領の総鎮守であったが、このことから姫宮の宮をとり現町名の一部とした。一説に延喜式(平安時代の法令集)にある埼玉郡百間神社とも言われている。社殿は江戸時代中頃のものと思われる。神体は釣鏡三面で中央に釈迦、左右に文珠、普賢の二菩薩が描かれてある。拝殿には多くの絵馬が奉納されており、「まゆ」の絵馬などめずらしいものもある。一方、境内左奥の八幡社付近は小高い岡となっているが、埴輪片の散布が認められる所から7世紀頃に造営された古墳(円墳)と推定される。

19 宝生院

姫宮山宝生院と号し、西光院の末寺である。当寺には、応永21年(1414)3月の銘がある鰐口がある。鰐口とは、鈴と同種の鳴物で参詣者の来詣を仏神に告げるものである。これは、かつて姫宮神社の社前に掛けられていたもので「敬白武州太田庄南方百間山姫宮鰐口一口、且那大夫五郎」とある。直径約40cmのもので、一部が焼くずれており、いつの頃か火災にあったものと思われる。一方、当寺には江戸時代前半の頃に作られた円空仏が一体保存されている。手に剣か錫杖をもち高さ36.5cmの杉像である。県内にはことに円空仏が多く、春日部市小淵の観音院や大宮市の薬王寺等多数ある。円空は、寛永9年(1632)に生まれ庶民の幸福と願



をこめて、十二万体の神仏を彫り上げることを念願として各地を遊行した人である。このほか、樹齡300~400年程と思われる大イチョウの木が境内にある。

20 島村繁の碑

旧家である島村家と道を隔てて「島村先生誨誘之碑」がある。長い漢文による碑にはおよそ次の様な事が刻まれている。「諱を雄隆通称繁、至道軒と号し、直心影流の免許皆伝を受け、邸内に道場を設け剣の普及に努めた。また、俳諧の師でもあり多少庵と号した。明治39年村長となり学校の改築、道路の修繕、教育に尽力した。44年病により47才で没した。大正4年6月大作暢選文並びに書」とある。

21 前原遺跡

先土器時代から縄文時代後期(約14000~3500年前)にかけての遺跡で、昭和55年に発掘調査が行われた。とりわけ、縄文時代早期(約8000年前)の住居跡7軒、炉穴、集石等の遺構や石斧、矢じりや土器など多数の遺物も出土し、該期の遺跡としては県内最大規模の遺跡である。また、該期の岩偶(ビーナス)は他では例がない。この他に、先土器時代のナイフ形石器の製作跡など2ヶ所の遺構があった。一方、縄文時代の後期(約3500年前)住居跡2軒が発掘され、完形の土器も出土した。なお、当遺跡は大宮台地東側周縁部に位置しており、台地の先端部付近にある。標高9m前後を測る。付近には西光院貝塚をはじめ遺跡が多い。

22 五社神社(埼玉県指定文化財)

古くは、五社権現社と称され祭神を熊野三社、白山、山王の五社を一棟等間隔に祀るところからその名がある。この社は、別当西光院が火災にあったため、詳しい事は明らかでないが建築技法からしておそらく文祿、慶長の頃(1592~1614年)建てられたものと推定されている。葺きの牡丹、竜、孔雀、鳳凰、虎、狼などの彫刻はことにみごとである。また、五間社の社殿は地方色豊かな建物として貴重なものである。一方、御神体として津田薩摩守作と銘のある和鏡が1面残っている。また元禄14年(1701)作られた釈迦如来像等がある。施主に鈴木源左衛門等の名がある。

